第44回 子規顕彰 小中高校生俳句大会

正岡 子規

「第44回子規顕彰小中高校生俳句大会」の表彰式が11月23日、子規記念博物館（道後公園）で行われ、8,324句の中から、グランプリ4句・特選130句・入選275句が選ばれました。グランプリと特選句を紹介します。◎は複数の選者に選ばれた句です。（敬称略）

なつのうみパパとだっこでとびこんだ

小学校下学年の部グランプリ
松野 楓舞（北条小1年）

夏休みに、パパと海に行きました。みんなは飛び込みをしていたけど、僕はとても怖くてできませんでした。そしたらパパがだっこして飛び込んでくれました。パパの背中をしっかりつかんでいたから、怖くなかったです。花畑にふわりと落ちるみたいに気持ちよかったです。パパのだっこって、すごいな。

小学校 下学年の部

金子 房江 選

◎夏の森ゆびの先までしんこきゅう　岡山　さくら（愛大附属2）
カーテンに子バッタ一ぴき風にゆれ　増原　悠希（椿2）
夏おわり一ぴき残った金魚ばち　井村　華凜（新玉3）
ゆかたきてすこしかけ足げたの音　山本　千聖（堀江3）
ひざこぞうたたみのあとつくねったいや　祝　しずく（清水2）
とんぼがねかっこうつけてプロポーズ　兵頭　駿弥（北条3）
兄ちゃんがたいいんスカッとラムネのむ　毛利　浩之（味生第二2）

高山 佳子 選

長電話やきなすこげるお母さん　大西　龍誠（窪田2）
おとうとのせんせいになろうなつやすみ　稲葉　愛乃（味酒1）
にいちゃんのあなあきくつ下さやえんどう　黒毛利　綾香（道後3）
おにやんまあみどにあたりキスをした　佳見　悠平（久枝2）
せんぷうき消しゴムのかすとびちった　吉井　太一（粟井3）
◎なつのうみパパとだっこでとびこんだ　松野　楓舞（北条1）

高須賀 智子 選

かかかかかみたら5ひきもとまってた　須賀　翔太（味生第二1）
大波でうきわとぼくが一回転　白方　雄一朗（みどり2）
はやくきてそうめんまってるぼくのはし　兼頭　宏幸（浮穴1）
じいちゃんのつくったえだまめうぶ毛あり　田渕　裕大（湯山2）
ぶどうがりむらさきのゆび食べたかず　伊井　祥花（さくら3）
ポケットにしまっておいたなつのかぜ　金　安理（日浦2）
青い海空までひっぱるじびきあみ　岡田　結（粟井3）
あさがおのたねがいっぱいひだりのて　乗松　友恵（北条1）

松田 潤子 選

ばあちゃんのにおいといっしょにぶどうきた　三宅　克紀（椿3）
あさがおにおはようというたびちがうかお　宇都宮　凜奈（北久米1）
四万十ですいか半分大人ぐい　本田　隆馬（東雲3）
夏の雲にわでさんぱつ男前　武田　陸斗（久米3）
こしかけて足にひんやりすいかかな　辻田　ありい（清水2）
◎なつのうみパパとだっこでとびこんだ　松野　楓舞（北条1）
かき氷まってるぼくの手犬ぺロリ　井伊　剣士郎（味生第二3）

吉見 香奈子 選

◎夏の森ゆびの先までしんこきゅう　岡山　さくら（愛大附属2）
なつのかぜぼくのすぶりがおとたてる　大橋　優也（味酒1）
テントからまん天の星すいこんだ　近本　直哉（みどり2）
かあさんのきゅうりのつけものうばいあい　三好　峻介（道後2）
くさすべりそらもみどりもとんでゆく　越智　路槻（椿1）
四つぶのえだまめさがすゆうごはん　河本　凜太郎（久米2）
公園のてっぺんで見る夏の空　都　優太（垣生2）

さびついたペダルが知ってるぼくの夏

小学校上学年の部グランプリ
藤本 一孝（味酒小6年）

この「ペダル」とは、長年愛用した自転車のペダルです。約6年間、一緒にいろいろな場所に行き、僕の思い出を全部知っています。今年の夏は、この自転車と一緒に過ごす最後の夏でした。この自転車は僕との思い出をずっと記憶してくれていると思い、この句を作りました。

小学校 上学年の部

茨木 里子 選

夏の海足跡のこしたおにごっこ　新堀　樹（窪田5）
◎さびついたペダルが知ってるぼくの夏　藤本　一孝（味酒6）
泣きやんだあの子の髪にほうホタル　小笠原　りさ（みどり6）
風りんとわたしの鼻歌二重そう　田中　絢子（道後4）
ひまわりのおじぎの相手は私かな　城戸　沙月（湯山5）
友達とそろいの浴衣で一歩ずつ　東元　沙知（たちばな6）
夏の星五つつないでドレミファソ　近見　晴海（たちばな6）

大久保 礼子 選

ゆかた着て男前の気分かな　亀岡　潤也（桑原5）
◎さびついたペダルが知ってるぼくの夏　藤本　一孝（味酒6）
せのびしてそれでもとどかぬアゲハチョウ　玉井　歩美（生石5）
SLのけむりすいこむ入道雲　紙田　千広（北久米5）
ひみつきちはこの中には青みかん　兵頭　魁（味生第二5）
春の旅笑い声もバスに乗る　越智　寿輝亜（素鵞6）
カゴの戸をあけてホタルを星にする　門田　詩央（垣生4）

高瀬 浩介 選

弟がせみがらならべ店開き　安平　実夢（荏原4）
夏山の一部になって深呼吸　近本　歩実（みどり6）
妹がすいかの先だけかじってく　佐伯　姫夏（河野5）
熱帯夜月のとなりに星四つ　谷　郁弥（味生第二5）
夏風に城山ゆれる渡し船　杉野　博明（素鵞5）
夏休み今朝も卵の片手割り　神田　茉奈（福音6）
梨かじる季節のかわる音がした　内野　みなみ（番町5）

谷井 紀夫 選

作業着の父を見送るぼん休み　枡見　勇星（味酒5）
かなかなや三日がかりで感想文　國弘　真太郎（生石5）
梅干しの空びん持って里帰り　川上　七愛（小野5）
かたほうのサンダルにのりすなはらう　草場　海斗（石井東4）
図工室ならぶよねん土ひなたぼこ　吉田　浩史（味生第二4）
青梅をつける母の手塩だらけ　岡井　美音里（垣生5）
金魚ばち大きくうつるねこの顔　青木　菜摘（雄郡4）

向井 京子 選

甲子園みんながかんとくテレビ前　矢野　遼馬（荏原5）
ラムネの矢鼻を射ぬいてツンときた　川淵　義昌（窪田5）
一番手少しえんりょのスイカわり　岩崎　日睦（道後6）
つれぬままサイダー温もる魚つり　天野　美月（石井東6）
カブトムシうごかない君になみだでる　一橋　知花（さくら4）
開会式とんぼに目がいく運動会　加藤　裕美（味生第二6）
時間差であそぶ約束夏休み　堀内　徳人（石井北4）

先輩のきりりと横顔夏点前

中学校の部グランプリ
藤野 佳子（北条南中1年）

部活の茶道でお点前をしている先輩の様子を見て、この句を思い付きました。初めは「先輩のお点前を見た夏の風」だったのですが、真剣な雰囲気を強く出した方がいいという先生のアドバイスで「きりりと」という言葉を加えました。これからも茶道の練習を頑張って、また良い俳句が作れたらと思います。

中学校の部

菅田 英治 選

ひまわりと一緒にうつむき晴れを待つ　尾崎　可奈（久谷2）
◎風うけてドミノ楽しむ青田かな　鹿島　智子（南第二3）
七夕やかなわぬ願いも書いてみる　石丸　莉穂（南2）
子守歌母には勝てぬ秋の空　長野　文香（愛大附属3）
風鈴で焼けた空気を一℃下げ　長尾　美玲（内宮2）
アスファルトビシビシはじく夏の雨　郷田　翔太（桑原3）
宿題の海に溺れる夏の夢　松本　愛里（久米1）

仲岡 美和 選

盆燈籠灯して読んだ「おくりびと」　大野　貴彬（久谷2）
夏登山後ろ歩きで母を待つ　木原　駿（新田青雲1）
蝉が止む太陽欠けて息を呑む　織田　大生（東1）
朝露で墨をすりすり願いごと　中山　志穂（余土1）
「あついなぁ」夏に限らず先生は！　小玉　武司（県立松山西1）
ひまわりは一本だけで潔し　金谷　佑実（鴨川3）
◎先輩のきりりと横顔夏点前　藤野　佳子（北条南1）

藤原 和嗣 選

食卓に青並べたる夏料理　武田　麗（中島3）
送り火にそっとつぶやく祖母の声　渡辺　夏帆（県立松山西1）
日傘さし祖母と並んですまし顔　井上　彩華（桑原3）
まだぬれぬ水着ではしゃぐ更衣室　田房　茉由良（済美平成2）
またおいで変わらぬかかし祖母の顔　岡本　わかな（小野3）
◎先輩のきりりと横顔夏点前　藤野　佳子（北条南1）
スダチ見てふるさと語る母笑う　三宅　咲乃（椿1）

堀内 秀樹 選

異国からようおいでたな夏へんろ　西村　太一（久谷2）
軍艦と対をなす影夏の雲　金子　友紀（中島3）
「帰省いつ？」メールの絵文字は祖母の顔　山下　萌花（道後2）
プチトマト逢いたい友が一人いる　得居　愛（北条南2）
◎先輩のきりりと横顔夏点前　藤野　佳子（北条南1）
夏座ぶとんいとこに相談かけてみる　猪上　恵里花（北条南2）
母さんといっしょに入る日傘かな　上岡　亜美（椿3）

宮崎 恭子 選

雲の下腰をたたいて田植する　岡田　聡平（久谷1）
◎風うけてドミノ楽しむ青田かな　鹿島　智子（南第二3）
十四歳アイスコーヒーまだ苦い　梅澤　睦夫（県立松山西3）
汗ふくむ重量級の柔道着　高須賀　友里（桑原3）
桜桃忌減らないにきび数えたり　板坂　愛実（北条南2）
楠のどしんと一人秋日和　櫻井　裕子（愛光3）
背番号十八番の暑さかな　檜垣　幸平（愛光2）

湧き上がる大志のような夏の雲

高等学校の部グランプリ
岡田 康平（愛大附属高3年）

わたしは高校生活で何がやりたいのか分からなくなっていました。しかし、ある先生のおかげで徐々に先が見えてきて、そのたびに将来の目標が明確になり、活気がわいてくるような気持ちがしました。そんな時に力強く昇っていく入道雲を見て、自分の思いと重なっていると感じ、この俳句を作りました。

高等学校の部

相原 左義長 選

叩き込め夏跳ね返す右フック　渕上　千弥（松山工業2）
蝉はみな空を仰いで鳴いている　平野　琢也（松山南1）
ほんのりとシャッター音のする秋思　石井　里佳（松山東2）
携帯の充電切れて遠足終ゆ　濱田　恵（松山聖陵3）
いつまでも蒲団たためぬ白い朝　白石　平（松山中央1）

上原 白水 選

ホブ旋盤流れる汗が切削油　野本　翔平（松山工業3）
メール打つ午睡で逢った旧友に　入船　美月（松山南1）
◎湧き上がる大志のような夏の雲　岡田　康平（愛大附属3）
頑張れと言われ下向く十六の夏　城戸　志穂（伊予2）
アルバイト花火の音が聞こえてる　兵頭　宏紀（松山聖陵3）

阪本 謙二 選

夏帽子振って笑顔が駆けてくる　松本　華（聖カタリナ3）
中の金魚が切なく見える金魚鉢　升田　友子（松山城南1）
鴉だけのプラットホーム神無月　野村　美月（愛光1）
自転車で坂道のぼる雲の峰　黒田　里美（松山中央3）
無人駅また無人駅夏旅行　小西　彩加（松山中央1）

高石 幸平 選

設計図消しゴムの跡汗の跡　坪内　綾乃（松山工業1）
◎湧き上がる大志のような夏の雲　岡田　康平（愛大附属3）
草の花ネットが揺れて笛が鳴る　伊賀上　史郎（松山城南2）
お下がりの母の浴衣に袖通す　高市　果歩（松山中央3）
菜の花や無人駅にもある別れ　宮崎　裕子（松山中央2）

福谷 俊子 選

煩悶の朱いためいき蝉時雨　菊池　杜茂子（聖カタリナ3）
夕焼けに染まる私と猫二匹　近藤　梨加（松山城南2）
映画村殿様バッタに道ゆずる　藤岡　太一（松山中央2）
青空に吸いこまれたるつばめの子　高市　果林（松山中央2）
路地裏のたんぽぽ今日も無口です　志賀　未規（済美平成5）

お問い合わせは、（教）子規記念博物館事務所☎931-5566・FAX934-3416へ